



産後の夫婦支援・包括的な性教育・災害看護

保健福祉学部 看護学科

准教授 日高 陵好（ひだか りょうこ）

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 3521 号室
Tel 0848-60-1120(代)
E-mail hidaka@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 母性看護学、リプロダクティブヘルス、災害看護、国際看護

キーワード： 産後の夫婦支援、セクシュアリティ、性の健康教育、発達障がいと性、災害看護、国際比較

● 現在の研究について

○「周産期における災害時対応リスクマネジメントに関する研究」を科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金・基盤研究C平成24年～26年）として行いました。東日本大震災後に現地調査を行い、妊産婦を守るにはどうしたらよいか考察しました。これからはこの成果を積極的に発信していきます。

○「出産体験」についての調査研究を行ってきました。出産は女性にとって一大イベントです。出産体験のあり様は女性の自己認識や母親役割にも影響します。女性の出産体験を記述し、医療者がどう支援したらよいか考察します。これまでに硬膜外麻酔での出産（日米比較）やパニックになった出産の体験について研究してきました。（この一部は平成19年日本助産学会奨励賞にて研究）陣痛の文化的意味合い、周産期での意志決定の支援について今後も続けて研究していきます。

○「リスク管理を含めた諸外国の包括的産科管理のあり方に関する研究」（松岡恵主任研究者・厚生労働省科学研究費補助金平成16～17年）の中で英国の産科におけるリスク管理について調査して結果を報告書にまとめました。

● 今後進めていきたい研究について

○妊娠期から産後育児支援まで切れ目のない包括的な支援の構築が全国で始まっています。その基礎資料になる研究を始めました。産後の夫婦の関係性をセクシュアリティも含めて調査していきます。海外とも比較したいと思っています。基礎資料が整ったら、看護職による介入モデルを開発したいと考えています。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

○産後のご夫婦を支援するために地域・社会と連携してその方法を考えていきたいと思えます。

○「性の健康教育講座」という概念で中学・高校と連携をとって進めていきます。また、「発達障がいと性」を支援していきます。

● これまでの連携実績

○三原市・県立広島大学研究開発助成事業にて「災害時の避難所生活における要援護者支援」（平成26年度）の研究調査を本学の他3名の教員と共同で行いました。その成果として三原市に報告書を提出しました。また結果の一部を日本看護福祉学会誌で発表しました。

○地域の中学・高校で性教育講演会を行っています。また、本学でのシティカレッジ（夏休み特別講座）にて、性の健康教育講座の一部として「高校生のためのプレママ・プレパパ教室」を行っています。